

TSA

TOBA SUPER AQUARIUM

No.86 WINTER 2024

特集

鳥羽水族館70年の軌跡

TSA 特別講座

ウミネコから学ぶ
「見えないつながり」の大切さ
風間 健太郎

地球で遊ぼう！

イモムシのすすめ
桃山 鈴子



鳥羽水族館

ISSN 0916-9725

鳥羽の日スペシャルイベント



▲ 公式ホームページ「鳥羽の日イベント」特設ページ

「10月8日は鳥羽の日」って？
なんでこの日が鳥羽？と不思議に思っ
た方もいるかもしれませんが、実はこれ、「と（10）ば（8）」の語呂合わせから生まれた、鳥羽市のユニークな記念日なのです。毎

年、この日は市内のお店や施設で「とば（108）」に関連した限定商品やお得なサービスが提供され、鳥羽の魅力が満喫できるスペシャルデーとなっています。今や鳥羽の夜を輝かせる花火まで打ち上がり、年々盛り上がりが増しています。

営業第一部 世古 則登

そして、鳥羽水族館もまた、鳥羽市の魅力度アップに貢献したいと考え、新たな企画に挑戦しました。それが、「ラッコ飼育係によるお食事タイムLIVE解説」です。公式YouTubeでは、今年の4月14日にスタートしたラッコの24時間配信が人気を集めています。お家で会社で、いつでもラッコたちの愛らしい姿に癒されることができるようになりました。さらに、食事シーンやこれまで公開していなかった営業時間外の活動をリアルタイムで見られるため、ファンの方にはた

まりません。「この映像を見ながら飼育係の解説があれば、もっと楽しめるのに……」と思う方も多いのではないのでしょうか？私もそのうちの一人でした。視聴者とは異なる飼育係の目線では、ラッコたちをどう見ているのかが気になり、今回の企画発案につながったのです。

ラッコを眺めていると、「もつと詳しく知りたい」という気持ちで自然と湧いてきますよね。そこで、イメージを膨らませながらプランニングをスタート。まずは、コンセプトを固めてから、参加人数や料金設定といった具体的な内容を詰めていきました。今回は鳥羽（とば）にちなんで、料金を1,080円に設定するという遊び心も加え、親しみやすさを演出。とはいえ、期待感に膨らむ方なのですが、「本当にお客様に喜んでもらえるだろうか？」という不安もよぎります。そんな中、今回のイベントを担うメンバーが集結しました。進行役を務めるのは、新入社員のフレッシュな若手スタッフ。そして、解説者のラッコのお姉さんも加わり、イベントの詳細についてディスカッションを重ねました。

TSA

TOBA SUPER AQUARIUM
No.86 WINTER 2024

Front Essay 鳥羽の日スペシャルイベント 世古 則登	01
特集 鳥羽水族館70年の軌跡 若井 嘉人	02
三重の水辺紀行 81 —夏から秋へ— 山本いず保	06
海の生きものたちに会いたくて 81 楽しい漁港水族館 若林 郁夫	08
わくわく鳥羽水ツアー 第2回 海獣の王国編	10
TSA 特別講座 50 ウミネコから学ぶ 「見えないつながり」の大切さ 風間 健太郎	14
地球で遊ぼう！ 45 イモムシのすすめ 桃山 鈴子	16

釣りバカ飼育員日記 第22回 アオリイカ 辻 晴仁	18
人魚姫セレナと日々11 セレナとカメ吉と日々 半田 由佳理	19
獣医のきもち 45 出産は生命の神秘！ 曾根崎 紗代	20
伊勢志摩ブラブラ 第8回 流行りの「リユース」はいかが 高林 賢介	21
もうヘンなヤツとは言わせない！ 27 珍客!? オオアカヒトデとアカイセエビ 森滝 丈也	22
とっておきのウラ話 飼育係がスナメリのお母さんに！？ 半田 由佳理	23
鳥羽水族館モノ語り 38 「ノート」	24
読者のページ	25
ラッコのオモチャ大公開 世古 篤史	26
[出来事&クローズアップ] 2024年5月1日～10月31日	28

フロントページから

変わる役割

2025年5月15日、もう間もなく鳥羽水族館は開館70周年を迎える。2024年11月末現在の累計入館者数は何と6820万人に達している。修学旅行や遠足、家族や友人との旅行など、多くの人々の思い出の中に鳥羽水族館が存在することはいへんありがたいことだ。そして水族館をご覧いただき、生きものの可愛らしさに心を癒され、生きものの美しい姿や不思議さに感動していただけたのなら、これほど嬉しいことはない。鳥羽水族館が果たしてきた「役割」は、それなりに大きかったのかもしれない。

しかしこの70年間のうちに地球環境は大きく変わってしまった。開館当時1955年の地球の人口は27億人だったのだが、2024年現在のそれは81億人にのぼり、3倍に増加した。人間活動の増大による地球温暖化は深刻で、生物の生息環境は破壊され激変を続けている。プラスチックが生活の中に当たり前となり便利になったのだが、海を漂うプラスチックゴミはどんどん増え続け今や1億5000万トン（ジェット機50000機分）、2050年にはプラスチックゴミが魚の量を上回るとさえ予測される。地球がボロボロになろうとしている今、何か水族館にできることはないのだろうか、と考えてしまう。



飼育研究部長 若林郁夫

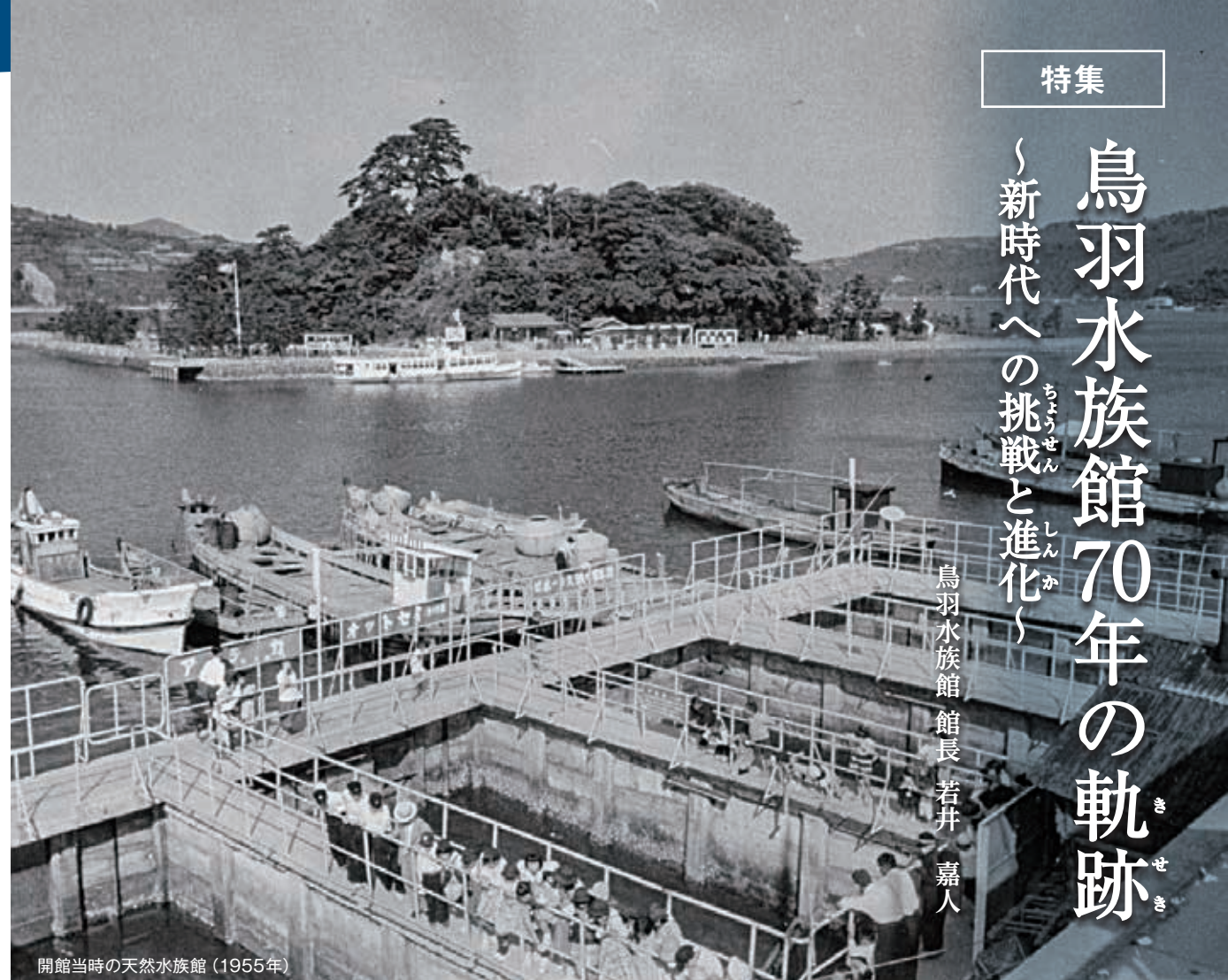
を重ねました。

準備を万全に整え、ついに待ちに待った本番です。場内のスクリーンにはラッコのお食事タイムの映像が映し出され、若手スタッフとラッコのお姉さんによる、絶妙(?)な掛け合いでLIVE解説が進行していきます。次々と明かされるラッコの意外な秘密に、会場は驚きと笑いが起こり、終始和やかなムードに包まれました。また、質問コーナーでは、参加者の皆さまから鋭い疑問も寄せられ、その度に「よくこんなところまで気づくなあ」と内心驚くと同時に、しつかり見てくださっていることが伝わり、嬉しく感じる瞬間でもありました。気づけばあつという間に時間が過ぎてしまい、最後に、ささやかながらラッコの肉球の写真をあしらった参加証をお渡ししました。手にした皆さまの気持ちが高ぶる、イベントの余韻を感じていたのだのではないかと思っています。今後、このように地域と連携したイベントを通じて、鳥羽への来訪のきっかけとなる取り組みを続けてまいります。どうぞご期待ください。

鳥羽水族館70年の軌跡

新時代への挑戦と進化

鳥羽水族館 館長 若井 嘉人



開館当時の天然水族館（1955年）

鳥羽水族館誕生

鳥羽水族館は、2025年に創立70周年を迎える。1955年5月15日、三重県鳥羽市の海産物商・丸幸商店の生簀を熱心に覗き込む観光客を見た創業者が一念発起、ついに鳥羽水族館をオープンさせた話は周知の事実である。

2024年3月、96歳でこの世を去られた創業者、中村幸昭名誉館長の初心「海の生きものを通じて人々に夢とロマンと知的好奇心を売るユニークな博物館活動を展開し、得た利益はすべてで学術研究に投ずる」は、当時日本の政財界の大御所、博物館の権威といわれた渋澤敬三氏の助言からヒントを得たもので、若かりし名誉館長が会社の発展にかけた並々ならぬ決意が見てとれる。

創成期（設立1960年代）

●始まりはコンクリート生簀

当初は海岸の一部を取り入れた「天然水族館」と称する簡易なコンクリートの生簀で、500坪ほどの池を4つに仕切り、ペンギン・アシカをはじめ、タイやブリ、イシダイなどが泳ぐ様子を見せていた。ちなみに前述の丸幸商店は、当初水族館の敷地内にあり、店の従業員も水族館の従業員も一緒になって無我夢中で働いていたそうだ。

オープンにしたものの、特に珍しい動物がいたわけではない。当時ユニークなアイディAMANとして知られていた中村館長（当時）は、開業前新聞記者として腕を磨いた天性の情報収集能力とチャレンジ精神を生かし、以後様々な企画を打ち出した。

●ガイド付き水族館

1956年、観光バスガイドをヒントに日本初のガイド付き水族館として、入館者に生物の生態や面白さを解説するサービスを開始。これが好評で入館者の質問に答えたり、地元伊勢志摩の観光についても案内出来ることから話題となり、お客様も次第に増えることとなった。新入社員は与えられた「ガイドブック」を必死で暗記し、団体旅行のお客様から依頼があると飼育係はもちろん、営業部・販売などからも応援に駆け付け館内を案内した。

●未知への挑戦・スナメリの飼育開始

1963年、漁師の網にかかったスナメリ2頭が突然当館に持ち込まれた。スナメリは、仙台湾以南、東京湾、瀬戸内海など沿岸性の小型のイルカの仲間、鳥羽水族館の目の前の伊勢湾にも生息している。当時スナメリの生態については不明な点も多く繁殖も難しいとされており、長く生かすことが困難な動物であったが、飼育係は試行錯誤を繰り返しながら根気よく基礎データを蓄積した。1969年、

成長期

（1970年代～1980年代）

●成長期を支えた「人・物・事」

1970年、スナメリ・アシカを飼育する新施設「マリンスタージウム」がオープン。その成果は1976年、世界で初めて「スナメリの飼育下における出産の成功」となつて花開く。また1977年・79年には、念願であった人魚伝説のモデル・ジュゴンをついに、から搬入し話題となった。こうして開館当初年間14万人だった入館者数は、施設の充実・新規動物の入館とともに徐々に増加しつづけ、そしてついに1983年、鳥羽水族館を全国的に有名にしたあの話題の動物、ラッコが入館する。翌年、幸運にもその一頭が赤ちゃんを出産したことから、愛くるしい姿を一目見ようと全国各地から大勢の人々が押しかけ、入館者数は200万人に達した。



フィリピンで保護されたジュゴンセレナ畜養風景（1987年）



ラッコの赤ちゃん「チャチャ」誕生（1984年）



奇跡の森 オープン式典 (2015 年)



ダイオウグソクムシNo.1 (2014 年)



へんな生きもの研究所 開所式 (2014 年)



新館全棟オープン (1994年)

ある。
この時期の鳥羽水族館は、好調な日本経済の恩恵と、当館がそれまで失敗を恐れず挑戦し続けてきた苦勞が報われた時代であった。加えて希少動物であるラッコやジュゴン・イロワケイルカなどスター生物たちの存在も見逃せない。そして「日本初のラッコの赤ちゃんの運命的な誕生」、「セレナとの奇跡的な出会い」といった、まさに「人・物・事」が見事に出会った時代であったといえる。

成熟期

(1990年代～2000年代)

●新水族館オープン

爆発的なラッコ人気で入館者数は大幅に増えたが、やはり人気は落ち着くと少しずつ下降し始める。そんな折、鳥羽水族館史上最大のターニングポイントともいえる新水族館建設計画が持ち上がる。全盛期は過ぎたとはいえ時はまさにバブル、総合保養地域整備法(リゾート法)の適用という追い風を受け、ついに1990年7月、新館(1期)が完成。その4年後にはラッコ・ジュゴン・イロ

ワケイルカ棟(Ⅱ期)が完成し、旧館の約4倍のスペースと、飼育種類数700種以上となる新館全棟がオープンした。本誌「TSA(トバ・スーパー・アクアリウム)」が刊行されたのもこの頃である。当館は新設された企画広報室を中心に、当時普及し始めたホームページを活用した情報発信や、ユニークなイベント・企画展など豊富な話題を人々に提供し続けた。

多様性と水族館のグローバル化 (2000年代～現在)

●リニューアルと新規動物の導入

新しい施設も10年、20年と経過すると当然老朽化するし、飽きられるのは世の常である。必然的に2000年～2010年代は、多様な動物の新規導入とリニューアルの時代となった。これまで飼育経験のない新しい動物が次々と仲間入りする。2005年セイウチ、2007年ダイオウグソクムシ、2008年アメリカカピバー、2010年カピバラ、2014年スナドリネコ。また施設の老朽化に合わせた各ゾーンのリニューアルや新設が進められ、2004年サ

ング水槽、2007年海獣の王国、2008年水の回廊新水槽、2010年伊勢志摩の海・ジャングルワールド、2013年へんな生きもの研究所、2015年奇跡の森などが続々とオープンする。年々下がり続ける入館者数を少しでも食い止めるべく、全社をあげて不断の話題作りと情報発信の努力が続けられた。

●社会に認められた業績

この頃、これまでの飼育技術の蓄積がようやく実を結ぶ。2012年「オウムガイとオオベソオウムガイの繁殖」、2014年「スナメリの飼育下繁殖と人工哺育」の実績が公益社団法人日本動物園水族館協会より認められ、希少動物の繁殖に特に功績のあった動物園や水族館に対して贈られる「古賀賞」を受賞した。これらの受賞は、一朝一夕で得たものではなく長い年月をかけて当館が築き上げてきた努力の証である。

●国内外施設との連携による関係強化

2000年代に入るとグローバル化がさらに進み、海外水族館や大学

との連携を強化することが多くなる。2008年韓国・63シーワールド、2011年ニューカレドニア・ラグーン水族館、2013年台湾・遠雄海洋公園、2013年韓国・コエックス・アクアリウム、2017年パラオ・パラオ国際サンゴ礁センター、国内では2018年に三重大学大学院生物資源学研究所と産学連携に関する包括連携協定を結ぶなど、グローバル化を見据えての関係強化が加速した。

新時代に向かって

近年、飼育生物は益々多様化が進み、令和6年10月現在の飼育種類数は、日本の水族館ではトップの1200種を超えている。この数字は単に記録としての意味合いだけではなく、ひとえに先輩方が築き上げた貴重な財産であると考えている。我々はこの事を忘れることなくこれからも多くの人の心に癒しを与え、生きものの命の素晴らしさ、大切さを伝え続けていきたいと考えている。



鳥羽水族館×パラオ国際サンゴ礁センター 友好協力協定調印式 (2017 年)



スナドリネコ繁殖 (2022年2月28日撮影)



第28 回古賀賞受賞「スナメリの飼育下繁殖と人工哺育」(2014 年)



第26回古賀賞受賞「オウムガイとオオベソオウムガイの繁殖」(2012 年)



セイウチ入館直後 (2005 年)



入館者数5000万人突破(2004年)

三重の水辺紀行



ハクセキレイ幼鳥



青い羽が美しいイソヒヨドリ (オス)



イソヒヨドリ (メス)

暑くなってくると水に入りたくありませんか？
 浅瀬でチャプチャプと水遊びをするのが最高ですが、なかなか行けない…そんな日に、どうしても水に浸かりたくなり、足だけでも、と訪れたのが五十鈴川です。階段を降りると目の前に川が流れています。冷たい水に足を浸すと小さな魚たちが近づいてきました。幼い頃に泳いだ川でも、足元に寄ってくる魚たちに目を凝らしていたなあ、と懐かしい気持ちになります。日差しは暑くても川面を渡る風は気持ちよく、小魚を狙う鳥たちを眺めながら、せせらぎに耳を澄ませる…最高の涼み方です。その時間にすっかり虜になった私は、その後も訪れるようになりました。

そして、ある日。

ぼんやりと川面を眺めていると、緑の光が走りました。え？何？と光を目で追いかけると、土手に止まり、時々飛び回っています。距離があるのに、緑の何かが飛び回っているのが分かるのです。とても綺麗な緑です。この色はカワセミ？

こんなに飛ぶスピードが速いんだ、という驚きと、初めて見た喜びが押し寄せてきました。小さな緑の光はしばらく

く対岸を飛び回った後、姿を消してしまいました。が、名残惜しく立ち去れないでいると、また川面を直線的に飛ぶ所が見られました。カワセミを見つめる私の後ろでは犬を散歩させている人が通って行ったりと、ごく普通の河原の風景です。人が通りかかる場所でもカワセミが身近に見られるんだなあ、と驚きました。そして、思いがけず良いものを見せてもらった、と嬉しく思いました。

そんな時に TSA の執筆依頼が来たのです。

それならカワセミの写真が撮れたらいいな、とカメラを持って通い出しましたが、姿を見ないのです。時々来る程度なのか、時間帯なのか、時期なのか。色々と考えながら川面を見つめていると、あのカワセミに出会えた時間がますます貴重なものになってきました。

初めて訪れた時は夏だったのに、カワセミを探して通ううちに季節はすっかり秋になりました。目的の写真は撮れませんでした。が、肉眼ではハッキリと分からなかった他の鳥が写真で確認できたのも、楽しい時間でした。これからも訪れたいと思います。

飼育研究部 山本いず保



季節が移ろう五十鈴川の空



ヒガンバナも咲いてきました



セグロセキレイ



足元には小魚が

三重の水辺紀行

mie-no-mizubekikou

自然あふれる三重の水辺を巡る

— 夏から秋へ —



色鮮やかなニシキベラ（金賞です）

●第81回● 楽しい漁港水族館 飼育研究部長 若林 郁夫

漁業が盛んな三重県の海岸線には、たくさん漁港があります。台風などの高波をさえぎるコンクリート堤防に囲まれ、漁師さんたちが獲った魚を水揚げする市場があり、港内にはたくさん漁船がつかねがれているイメージでしょうか？私は近所にフィールド調査に出かけた時も家族でどこかに出かけたときも、ついつい漁港に立ち寄ってしまつたのが癖になっています。今は何が釣れているんだらう、何か珍しい魚が揚がっていないだらうか、水揚げされた魚を順番に見て回るのが楽しみです。そして漁港のもう一つの楽しみが、岸壁から下を覗き込み、色々な生きものたちを探すという楽しみです。今回は、この秋に鳥羽周辺の漁港に数回出かけたので、そこで出会った生きものたちのご紹介することにしましょう。

鳥羽周辺の志摩半島には、大小20カ所程の漁港があります。今回は鳥羽市の南に位置する漁港2カ所と南伊勢町の漁港2カ所に何度か通い、見つけた生きものの写真を撮ってみることにしました。と言っても漁港の中ですし、水も冷たいので、ウェットスーツを着て潜るわけにはいきません。私のウオッチングと撮影は、潮が満ちている時に岸壁に寝そべって、防水カメラや普通のカメラで写真を撮りまくるという方法です。

10月31日には3カ所の漁港を回ってみました。岸壁をゆっくりと歩きながら、水中を覗き込み、生きものの姿を探して行きます。水面に細長い魚が群れて泳いでいるかと思えば、水深50センチのところきれいな魚がい



写真撮影の様子

す。特に秋は、漁港の中に魚の子供たちがたくさん集まる時期ですのでチャンスかもしれません。しかし漁港の環境も少しずつ変わって来ている。現在、全国的に漁師さんの数が減っており、鳥羽周辺の漁港もどんどん寂しくなってきました。また担手の減少は、地球温暖化や乱獲によって、魚や海藻、エビや貝が獲れなくなっていることも関連しているようです。その他、漁港内で見かける生物が少しずつ南方系のものに変わって来ていること、浮いているゴミにプラスチック類が増えてきたこと

と、本当に心配でなりません。たくさん魚が水揚げされ、漁師さんたちの活気であふれる漁港が存続され、楽しい漁港水族館がいつまでも楽しめたらいいのになーと思つてしまいます。皆さんにも漁港へ出かけてほしいのですが、くれぐれも海に落ちないように…。

たり、カニやヤドカリが餌を食べていたりもして、次から次に色々な生きものたちが目の中に飛び込んできます。そしてそろっと防水カメラを水に沈め撮影スタートです。魚がいる方向にカメラを向け、バシャバシャ写真を撮りまくります。昔はフィルムだったのでケチケチしながら写真を撮っていましたが、今はデジタルカメラなので撮り放題です。ピンボケもいっぱいですが、中にはまあまあ使える写真も混ざっているのです。きれいなニシキベラ、ロープで休むアナハゼの写真は「金賞」でしょうか？

その後も何回か漁港に出かけてみましたが、11月4日には、ちよつと



ロープで休むアナハゼ（金賞です）

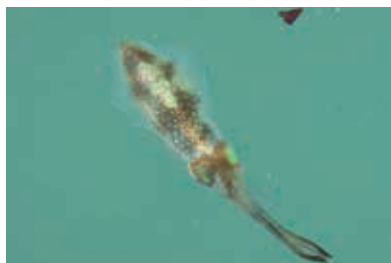
漁港の中は本当にたくさんの生きものたちであふれているのに改めて気づくことができます。堤防でさえぎられているため波は穏やかですし、テトラポッドがあったりロープが垂れていたりして隠れ家はいっぱいあります。漁師さんが捨てた魚の死骸などの餌もありますし、海の生きものたちには暮らしやすいようで



水面に群れるトウゴロウイワシの仲間



こちらをじろりと見るアカヤガラ



体色を変え触腕を延ばすアオリイカ子供



南方系のハタタテダイ（右）



枯れ葉のようなアオリイカ子供

わくわく 鳥羽水ツアー

TOBA AQUARIUM TOUR

第2回 かいじゅう 海獣の王国編

ここでは、鳥羽水族館をエリアごとに改めて紹介していきます。
ご来館されたことがある方もない方も、
私と一緒に鳥羽水を見ていきましょう！

第2回目は、Bコーナー「海獣の王国」です！こちらでは、シヨール中に見られないアシカやアザラシの仲間達（なまこ）のびのびと過ごしている様子や、トレーナーの解説付きで毎日行われる「お食事タイム」をご覧ください。それ以外にもいろんな角度から見る事ができるんですよ。陸場から、水上透明チューブの中（なか）から、屋上（えいじょう）から！見どころ満載（まんざん）です。見逃（みのが）すことのないように、しっかりとついてきてくださいね！

まずは、2階のメインストリートから見てみましょう。ガラスのすぐ奥（おく）には、「一見（いちけん）すると普通の陸場（りくば）に見えるスペースがありますが、そこは体重計（たいしやうけい）になっていて、アシカやアザラシたちが乗（の）ることで体重測定（たいしやうそく）をすることができますようにしています。毎日のお食事タイム中に、トレーナーの合図（がしう）でしっかりと体重測定（たいしやうそく）を行っているんですよ！さらに、奥（おく）には透明（とうめい）のトンネルのようなものがあります。こちらは2018年に新設（しんせつ）された「水上透明チューブ」で、中（なか）を通（とお）てみると、すぐ横（よこ）で日向（ひなた）

ぼっこしていたり、私（わたし）たちが立（た）っている真下（ました）を泳（およ）ぐ様子（ようす）が見え（み）ます。まるで海獣（かいじゅう）の王国（おうこく）に入り込（こ）んだかのような感覚（かんかく）になれるので、ぜひ通（とお）ってみてくだ（くだ）さい！また泳（およ）いでいる様（よう）子は、1階（かい）の水中（すいじゅう）部分（ぶぶん）からも見（み）ていただけます。泳（およ）ぐスピード（スピード）や水中（すいじゅう）での動き（うごき）に注（しゆ）目（め）です。

最後に、3階（かい）の屋上（えいじょう）ストリートへ上（あ）がってみましょう。上の写真（しやうしん）にあるように全体（しんたい）を見渡（みわた）すことができ（でき）ます。晴（は）れている日は、ここ（ここ）からお食事（おしきじ）タイム（タイム）を見る（みる）のもオスス（すす）めです。また隣（とな）には、浅（あ）く水（みづ）が張（は）られた水槽（すいじやう）があります。こちら（こちら）はアシカ（あしか）やアザラシ（あざらし）達（たち）が産（う）ま（ま）れ（れ）て育（そだ）ち（ち）を行（い）うように、「ヒレアシ（ひれあし）育成（いくせい）水槽（すいじやう）」として、水上（すいじょう）透明（とうめい）チューブ（チューブ）とともに新設（しんせつ）され（さ）れました。現（げん）在（ざい）も、オタ（おた）リア（リア）の親（おや）子（こ）が展（てん）示（し）さ（さ）れていま（いま）す。可（かわ）い（い）親（おや）子（こ）の様（よう）子（し）をぜひ（ぜひ）ご覧（らん）くだ（くだ）さい！



バックヤード紹介

バックヤードで過ごす個体も、トレーニングを行っています！展示水槽へ移動する際、スムーズに行き来できるようにするため、また体調管理に繋げるために、毎日のトレーニングは欠かせません。



新設された「ヒレアシ育成水槽」には、2024年8月14日に生まれたオタリアの子どもが母親のがっちゃんとともに展示されています。親子でじゃれあったり、プールで一生懸命泳ぐ子どもの様子に飼育係も癒されています。こちらは期間限定なので、お見逃しなく！



普通の床に見えますが、この下には体重計が備わっています！トレーナーの指示をしっかりと聞いて、カリフォルニアアシカのリックくんが体重計へ。右上の表示で、実際の測定結果を見ることができます！今日の体重は何キロかな？

陸場でも、トレーニング中など様々な動きを見せてくれますが、広い水槽の中でいきいきと泳ぐ姿も見ごたえがあります！写真のように、ガラス近くにも来てくれますよ。でもすぐに通り過ぎてしまうので、よく見ていてください！



館内見取り図



担当者オススメポイント!!

1日2回行っているお食事タイムはメインストリートから見るのが人気ですが、水上透明チューブの中から見るとこんな大迫力の姿を見ることができるかも！？
他にも屋上や水中など色々な場所から動物たちの動きをご覧ください！



ウミネコから学ぶ「見えないつながり」の大切さ

早稲田大学人間科学学術院 准教授 風間健太郎

嫌われものカモメ

波打ち際を軽やかに飛ぶカモメを眺めていると、私は幸せな気持ちになります。しかし、カモメを厄介ものと感じる人は多いようです。カモメはあたりにフンをまき散らし、あたりがまわらずやかましく鳴き、時々ゴミをあさって散らかしたり人間から食べ物や奪ったりするからです。なかでも、カモメは漁港にたむろして魚を盗み食いするなど様々な被害をもたらすため、漁師からはとくに嫌われています。

北海道利尻島の「害鳥」ウミネコ

ウミネコは日本で最もふつうにみられる中型のカモメです。北海道利尻島には日本最大のウミネコの繁殖地があり、その数は最大で10万羽近くにのぼります（写真1）。ウミネコは普段は一日の大半を海の上で過ごしませんが、春から夏の繁殖（子育て）の時期になると上陸して集団で巣を作ります。毎年2〜3個の卵を産み、1か月ほど卵を抱き、そのあと2か月ほどかけてヒナを巣立たせ

ます。ヒナを育てる間、ウミネコは島から100 km以上も離れた沖合まで一日に2〜3回も出かけて魚をとり、巣まで持ち帰ってヒナに与えます（写真2）。

利尻島は、高級だし昆布として有名なリシリコンブが特産です。毎年初夏になると海から揚げたりリシリコンブが天日干しされます（写真3）。ウミネコは、干されたリシリコンブにフンを落とすことがあるため、漁師から「害鳥」としてとても嫌われているのです。リシリコンブを干す場所の近くでは、ウミネコの追い払いが行われたり、ウミネコ除けの釣り糸が張られたりして、運悪くウミネコが釣り糸に絡まってケガをしたり死んでしまったりすることもあります。

「害鳥」ウミネコはぐくむリシリコンブ

私の最近の研究から、漁師からとても嫌われているウミネコが実はリシリコンブをはぐくんでいることがわかってきました。繁殖期の間、ウミネコは沖合から陸上の巣までせつせと餌を運んでくることを説明しま



写真1：北海道利尻島のウミネコ繁殖地。最大10万羽が集まる。



写真2：餌のイカナゴを吐き戻してヒナに与えるウミネコの親鳥。



写真3：利尻山を背景に天日干しされるリシリコンブ。

したが、この餌運びには実は驚きのはたらきがあるのです。ウミネコの餌である魚には、窒素などの海の栄養分が豊富に含まれます。ウミネコの親鳥やヒナは巣の周りでたくさんフンをしますが、このフンにも栄養分が豊富に含まれます。フンに含まれる栄養分の多くは繁殖地に生える植物の肥料として利用されます。さらに、残りは雨水や地下水に溶け込んで海へと流れ込みます。流れ込んだ栄養分がリシリコンブなどの海藻類の生長を助けていることもわかってきました。ウミネコは沖合と陸、そして磯とを結びつけ、栄養分を運ぶことで、多くの生きものの命を支えていたのです。

ウミネコはこれからのリシリコンブ漁の救世主

現在多くの生きものが減っています。利尻島ではまだからうじて数を保っているウミネコですが、餌不足、ネコなどの外来種の出現、人間による追い払いなどによって、ここ40年ほどの間日本各地でその数を7割以上も減らしています。リシリコンブも減っています。現在、気候変

見えないつながりを知ることの大切さ

近年、地球の豊かさを守るために、生きもの（資源と呼びます）を持続的に利用することを目標としたSDGsが声高に叫ばれています。「持続的」とは、人々が今だけ・自分だけの都合で考えず、子供や孫、さらにはそれよりもずっと先の子孫のことを考えながら、彼らに今と同じかそれ以上に豊かな資源を残していくことを言います。地球の資源を持続的に利用するためには、資源が

増えたり減ったりするしくみをよく理解し、その時の資源の量に合わせ適度に利用することが不可欠です。しかし、資源が増減するしくみを理解することは簡単ではありません。資源は様々な生きものどうしのつながりによって保たれているので、ある資源の増減を知るにはその資源がどのような生きものとのようにかかわり合っているのかを知らないといけません。広大な地球には数多くの生きものが生息するため、生きものどうしがどのようにつながり合っているのかは、十分によくわかっていません。ウミネコとリシリコンブのように、一見かわかりがないと思っていた生きものどうしが、実は深くかわり合っていることもあります。人間がこれからも資源を豊かに保って持続的な社会をつくるためには、私たちは目に見えないものも含めあらゆる生きものどうしのかかわり合いをよく理解し、いかなる生きものも一方的に「害」と決めつけることなく大切にしていくなければなりません。



風間 健太郎 Kentarou Kazama

早稲田大学人間科学学術院准教授。2010年北海道大学水産科学院博士後期課程修了（水産科学博士）。2019年より現職。大学生の時に北海道利尻島ではじめたウミネコの生態研究を20年間続けている。専門は海鳥を主な対象とした生理・行動・保全生態学や地球化学。近年は洋上風力発電が海洋生態系に及ぼす影響についても研究しており環境省や経済産業省の専門家委員も務めている。2022年より環境省レッドリスト鳥類分科会委員。著書に「鳥類の行動生態学」（京都大学出版会、分担執筆）、「はじめてのフィールドワーク」（東海大学出版、分担執筆）など。

桃山鈴子

東京生まれ。昆虫学の授業で顕微鏡を使った観察スケッチを学んだことが絵画表現の原点になっている。個展多数。2022年細見美術館の「虫めづる日本の美」展に出品。2024年鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム「蟲(むし)???養老先生とみんなの虫ラボ」展に出品。現在、絵本「へんしん-すがたをかけるイモムシ」(福音館書店)の原画が「プラチスラバ」からやってきた!世界の絵本パレード」展に出品中、2026年まで全国の美術館を巡回。2025年に雷鳥社より動物にまつわるエッセイ集を刊行予定。



ルリタテハの一生とサルトリイバラ



マメドクガのひらき



作品集『わたしはイモムシ』(工作舎)
NY ADC 101st Annual Awards で
ブロンズキューブ受賞



絵本『へんしん』(福音館書店)
2023年プラチスラバ世界絵本原画展の
日本代表に選出

「ロケットに乗らないでも行ける宇宙がある」
イモムシの宇宙への旅は、すぐ足元の草むらにいつでもひらかれているのです。

そう遠くない未来に火星で暮らせる時代がやってくると言われていますがイモムシのいない星だと思ふと私は気乗りがしません。むしろこの星をイモムシが安全に暮らせる星に戻して欲しいと願っています。

けれどももしこのエッセイが皆さんをイモムシの宇宙へ誘うとすれば、こんなに嬉しいことはありません。

「ロケットに乗らないでも行ける宇宙がある」
イモムシの宇宙への旅は、すぐ足元の草むらにいつでもひらかれているのです。

「ロケットに乗らないでも行ける宇宙がある」
イモムシの宇宙への旅は、すぐ足元の草むらにいつでもひらかれているのです。

イモムシから広がる世界

飼育していると面白いことがわかってきました。たとえば、イモムシの性格にもいろいろあるということ。おとなしいイモムシもいれば、すぐに怒るイモムシもある。逆立ちしてフンを飛ばすイモムシもいたりして、思わず笑ってしまいます。こうしてイモムシを観ている時間は人間社会のわずらわしさから離れ、違う時の流れに身を置くことができます。不登校の時も、人間関係で悩んでいた時も私はイモムシを眺め、イモムシに救われ

し、写真に残します。

笑顔になりました。

なにしる表情がないので、こちらがイモムシの顔をうかがったり、イモムシを笑顔にさせようとして気を揉んだりする必要がありません。眺めていると、イモムシが鏡のように自分の心のやわらかな部分を映し出してくれる気がします。だからでしようか落ち込んでいてもイモムシと生活していると元気を取り戻します。

また、イモムシを少しずつ知るうちに、食べている植物のこと、天敵の寄生蜂やアシナガバチ、鳥たち、巡る季節などイモムシをとりまく環境にも目

イモムシの宇宙

イモムシの自然界での生存率はわずか1%と言われています。羽化不全、天敵の鳥たちや寄生蜂、台風など命を落とす要因はたくさんあります。加えて近年の気候変動です。この先も四季折々、彼らに出会えるのだろうかと思配です。

そう遠くない未来に火星で暮らせる時代がやってくると言われていますがイモムシのいない星だと思ふと私は気乗りがしません。むしろこの星をイモムシが安全に暮らせる星に戻して欲しいと願っています。

けれどももしこのエッセイが皆さんをイモムシの宇宙へ誘うとすれば、こんなに嬉しいことはありません。

「ロケットに乗らないでも行ける宇宙がある」
イモムシの宇宙への旅は、すぐ足元の草むらにいつでもひらかれているのです。

45

桃山鈴子さん

イモムシのすすめ

イモムシ画家の誕生

それから大人になり、イモムシに出会い直しました。ちょうど人間関係に悩んでいた時、暗い気持ちでうつむいて歩いていたらイヌザンショウにクロアゲハの幼虫を見つけたのです。私は息をのましました。幼虫の体に散りばめられた複雑な模様が、まるで夜空に横たわる天の川のように見えたのです。星座図のようにこの模様全部を一枚の紙に写し取ったらどんなに美しいだろう。そう思い、そのまま持ち帰って絵を描き始めました。これが『イモムシ画家』のはじまりです。

友だちはイモムシ

イモムシとの出会いは小学生の頃です。私は転校生だったのですが、新しい学校になじめず、不登校になりました。学校を休んでいる時は庭でアリの巣の周りに砂糖をまいて観察したり、マルハナバチを捕まえて、虫と遊ぶことが楽しみのひとつでした。イモムシは腕に這わせて遊びました。ちいさな脚がピトピトと肌に張り付く感じが好きだったのです。クチナシにオオスカシバの幼虫をみつけ飼育したのもこの頃です。

イモムシ画家の一日

朝6時頃に起きて虫散策を兼ねた猫の散歩に行きます。うちの猫さびちゃんを外を散歩するのが大好きなのです。道路沿いのマンション暮らしなので車を数分走らせた里山で散歩をします。さびちゃんをリードを外しても呼ばは戻ってきてくれるので、その間はイモムシを探しま

まず背中から描きはじめてのですが、背中の模様はそのまま左右の側面とお腹まで続いています。左側面とお腹を描き、右側面を描いている途中でイモムシが脱皮をしました。このため完成した絵の中で左右の脚の大きさと色が違っています。写真ではなく、飼育観察しながら生きているイモムシを描いたため、脱皮前と後のイモムシの時間を絵に閉じ込めることが出来ました。完成した絵は魚のひらき」のようにイモムシをひらいた状態になったので、私は「イモムシのひらき」とよんでライフワークにしています。



アサギマダラの一生、キジョランとともに

地球で
Let's enjoy on the earth
遊ぼう!



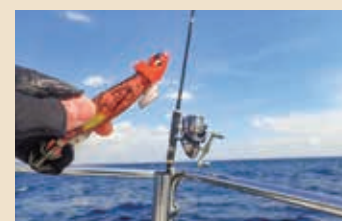
第22回 アオリイカ

飼育研究部 辻 晴仁

水面に現れたアオリイカ（アカイカ型）



薩摩発祥の餌木



現代の餌木（当時から原型は変わっていない）



水槽へ搬入したアオリイカ



釣ったイカは船のカンコ（生け簀）に収容する

「イカ」を知らない日本人はいないのではないのでしょうか。日本には古来よりイカを食す文化があるからだと感じています。ところがイカを飼育することがある方は少ないはずですが、それもそのはず、イカは飼育係からしても飼育が難しい動物の一つだからです。その理由の一つに彼らには鱗がないことが挙げられます。例えば定置網の漁をイメージしてください。網が絞られて中に入った魚がごった返します。イカも魚と同じように網に入るこ

とがあるのですが、鱗のないイカは擦過することで表皮が傷だらけになってしまつたのです。飼育係は飼育のプロですが魔法使いではありません。状態の悪い動物にはベストを尽くしますが、回復するかどうかは動物の生命力次第です。となると、より良い状態で生きものをキープすることが重要となります。

そこで当館ではイカを釣るという手段でキープし、長期の飼育に挑んでいます。生物を捕獲するという観点から考えると、カンナと呼ばれる針の部分しか体に触れないため、負荷が極めて少ないのです。釣った直後のイカを見れば一目瞭然で、とても綺麗な状態で捕獲できます。釣りという遊びのイメージがあるかもしれませんが、イカを釣る漁具は餌木と呼ばれ、江戸時代に薩摩地方から始まったとされる歴史ある漁法の一つです。私もこの餌木を駆使して釣獲しています。

彼らの泳ぐ姿には不思議な力があります。お客様もそれを感じるのか、多くの方がイカの水槽の前で足を止めます。最後になりましたが当館では「アオリイカ」を10〜5月を目安に展示しております。ご来館の際は是非ご覧下さい。（動物の状態により展示が出来ない期間もございます。あらかじめご了承ください。）

第11回

人魚姫 セレナとの 日々

飼育研究部 半田 由佳理

セレナとカメ吉との日々

今回は「セレナとの日々」ではなく、「セレナとカメ吉との日々」としてお話をしたいと思います。水槽の前でセレナを観察していると時々お客様に聞かれることがあります。「カメ吉くんはどこですか?」と。皆さんは絵本「ふたりはいつもともだち」をご存じでしょうか? 26年前に起きたセレナとカメ吉の実話なのですが、ご存じない方のために簡単にあらすじをご紹介します。「セレナとアオウミガメのカメ吉はいつも同じプールで仲良く泳ぎ、2人でたくさんのアマモを食べていました。ある日、セレナの食べたアマモの正確な量を知るため、カメ吉が隣の水

槽に移動し、別々に暮らすことになりました。するとセレナが餌を食べなくなりました。飼育係は原因を考えました。もしかしてカメ吉と離れてしまいセレナは寂しいのではないかと。そこで、カメ吉を同じ水槽に戻したところ、セレナの食欲が戻り元気になった」というエピソードです。

現在、セレナとカメ吉は別々の水槽（隣どうし）で暮らしていますが、とっても元気でいます。ふたりが別居することになった理由としては、カメ吉が大人になったということでしょうか。カメ吉は穏やかな性格なのですが、成長とともにセレナを追いかけ噛もうとするなどの発情行動が見られるようになりまし



仲良くアマモを食べるセレナとカメ吉



絵本「ふたりはいつもともだち」

の心も大人になったのだと思います。

しかし、カメ吉には時々セレナの運動係として活躍してもらっています。セレナは活発に泳ぐ性格ではないので、時々運動不足になってしまふことがありますが。そうすると食べる餌の量が減り、時には便秘になってしまうことも。そんな時はセレナとカメ吉を一緒にします。そして、たくさん泳ぐことで、セレナは運動不足が解消され調子が良くなるのです。カメ吉はセレナに背中を擦られ

少し迷惑そうにも見えますが、カメ吉は潜水掃除をしているダイバーに付きまとい掃除の邪魔をするので、一時的にホールディングプール（お客様にはご覧いただけない水槽）にすることがありますが、掃除が終われば戻りますので心配なく。

少し離れてはいるけれど、お隣でうしでお互いの存在を感じ、時にはふたりで一緒に遊ぶことも。これからもセレナにとってカメ吉はなくてはならない存在で、2人はいつでも友達なのです。

獣医のち もき

【45】

この二年ほどの間に私自身に大きな変化がありました。それは自身が出産を経験したことです。これまで獣医師として数々の動物の出産や人工哺育に携わってきました。そのおかげか出産というものは身近に感じられ、それに対してはとくに大きな不安を感じることはありませんでした。

しかし妊娠がわかってから感じる様々な変化は思っていたより大きなものでした。初期のつわりはひどく、大きなお腹は動きにくいし、全身はむくみます。妊娠中の動物が水面で億劫そうに浮いたり重そうに陸場を移動していたりするの思い出し、こんな気持ちだったのだからかと思いを馳せました。

動物でも人間でも出産が近づくにつれて気になるのが出産予定日。動物では、体温が一度下がると出産が近いことがわかりますし、他にも血液検査でホルモン

出産は生命の神秘！

飼育研究部

曽根崎 紗代

の値を見ながら予想をたてますが、その数値は上がったたり下がったり：なかなか予測できるものではありません。皆頭ではわかっているものの、それぞれ落ち着かないものです。いざ陣痛が始まった後も今夜のうちに産まれるかそれとも次の日の日中に持ち込むか：どうだろうねえと話しています。なんとか無事に生まれ、授乳が確認できたときによりやく胸をほっとなでおろします。さて、私はというとそういった検査はすることなく、子供はお腹の中で元気なまま予定日を通過していききました。前陣痛や恥骨痛など出産が近づいてきた兆候として知られるものが予定日近くになると感じられるようになりましたが、それがあつたとしてもいつ生まれるかは私にもお腹の子供も産科の先生にもわかりません。ただ待つのみで、歩くのもままならぬ大きな身体を持て余し、お腹の子供にお母さんのお腹の中は居心地がいいのかい？と話しかけていました。結局予定日を大きく超えたため、それでは明日から入院して陣痛促進剤を使いましょうという話になりました。そしてあれよあれよという間に無事に出産しました。ようやく対面したわが子はふにやふにやで、今まで見てきた生きもののたちの赤ちゃんより頼りなく思えました。それでも日に日に腕の中で成長



▲出産後初の大仕事。
バイカルアザラシの全身麻酔下の処置。

を遂げていくわが子をとてたくましく感じました。
職場に復帰した今、日々成長するわが子とどたばたの毎日を過ごしています。職業柄、突然の呼び出しや対応を迫られることもままありますし、まだまだ小さいわが子もよく熱を出したりして保育園からも呼び出しがかります。なかなか思い通りにいかない毎日の中でフラストレーションを感じることもあります。貴重な毎日を送っているんだなあとしみじみ感じています。子育て中でも人生の中でもなんともならないことは変わらざるもの、と割り切つて過ごしています。私自身、出産を経て、ひとつ強くなれたのかもしれない。

第8回

伊勢志摩 プープラ 流行りの「リユース」は いかが

高林 賢介

造が減り、石油そのものの使用量や製造時に出るCO₂排出量の削減につながります。また、ごみの量が減れば、最終処分場への負担も軽減され、限りある地球の資源を大切にすることに繋がります。

では、私たち自身はどのようなことができるでしょうか？外出時にはマイボトルやマイバッグを持ち歩くという習慣はいかがですか。小学生あたりですと日常的に取り組んでいますよね（大人のほうがダメかも）。私の友人はマイ箸を持ち歩き、食事のあとには店の方に洗ってもらっています。これらは小さな取り組みかもしれませんが、多くの人が積み重ねることで、ペットボトルやレジ袋、カトラリーといった使い捨て製品の使用量を間違いなく減らすことができます。

また、着なくなつてクローゼットにたまった服はどうされていますか？この頃の服は繊維素材のものが多くです。ぜひ店頭での回収やリサイクルショップに持ち込みましょう。流行りのフリマアプリなどもい

いですね。自分では飽きてしまった服もまだまだ需要があるものです。「これが売れるんだ！」という驚きも味わえますよ。

先日知ったのですが、衣料販売業のユニクロは、回収した古着をクリーニング、染め直しをして販売する「古着プロジェクト」を始められたそうです。このような事業を成功させるためには、回収方法や品質管理など、クリアすべき課題は山ほどあると思います。しかし衣料品の大量廃棄が世界的な問題となっている今、このリユース事業に取り組む企業の志はとても高いものだと感じています。

ちよつと違う視点では、壊れた家電製品や家具を修理して使い続けることもよいです。けっこうパーツにプラスチックが使われています。ぜひ安全な範囲で、愛着のあるビンテージモノとして大切に使ってください。

※3Rとは、リデュース、リサイクル、リユースのこと。プラ削減対策のスリートップです

性化にもつながります。ぜひ、皆さんにもお部屋を見まわして身近なリユースを始めていただきたいと思います。「物は大切にしないさい、手に入れた時の喜びを忘れないように」という先人の言葉は真理です。



古いものに価値を見いだす面白さ

2023年10月8日、スナメリの「ココロ」に赤ちゃんが誕生しました。ココロは2017年5月に鳥羽水族館で生まれ人工哺育で育ちました。そして、今回はそんなココロにとって初めての出産になりました。出産後、ココロは赤ちゃんを気にして一緒に泳ぐことはありましたが早産ということもあり、おっぱいをあげることができず、この赤ちゃんは翌日から仮設プールで人工哺育をするようになったのです。

これまで鳥羽水族館で飼育されているスナメリたちは、すべて春から夏にかけての出産でしたが、この赤ちゃんは秋生まれ。しかもこの時期に人工哺育をするということは私たちが初めての経験でした。いつもなら水温が徐々に高くなりますが、今回は逆にどんどん低くなっていきます。そうすると赤ちゃんは、寒さで体温を維持することが大変になってくるのです。そんなこと

を心配しながら、担当者で授乳シフトを組み、24時間体制で赤ちゃんに1日15回のミルクを与えました。交代で2名が水族館に泊まり、仮眠をとりつつ夜中の12時や3時に起きて（3時に起きるのがいちばん辛かった）、赤ちゃんにミルクを飲ませました。授乳は胃までカテーテルを挿入し、注射器でミルクを流し込みます。一見、可哀想に思えるかも知れませんが、準備したミルクを確実に与えるためにはこの方法しかありません。毎回の授乳記録には「舌まきコクコク」や「舌まきチュパチュパ」と書かれており、これはカテーテルに舌を巻き、活発にチュウチュウ吸う動きで授乳中これがあるとお腹が空いているんだな、という目安になりました。



授乳中の赤ちゃん

毎日の観察や体重測定、時には採血もおこない、赤ちゃんが健康に成長しているのかをチェックしました。しかし、ミルクを最大限まで増量しているにも関わらず、赤ちゃんの成長スピードはこれまでの赤ちゃんとは比べると遅く、心配していた水温低下が原因ではないかと考えられました。仮設プールには海水を温める機能がありませんでしたが、熱帯魚用のヒーターをプールに入れたり、オイルヒーターで周りの空気を暖めたりとできる限りの対策をとりました。生まれたばかりの頃は授乳の度に捕まえられることを嫌がっていましたが、嬉しいことにだんだん赤ちゃんの方から寄って来るようになり、少しずつですが体重も増えていき、生後70日目からは小魚を食べる練習をしました。そして生後170日を過ぎたころには完全に授乳を終了、赤ちゃんは魚だけを食べるようになりました。これで私たちはようやく人工哺育を終えることができ、ひと安心となったのです。

飼育係がスナメリのお母さんに!?

飼育研究部 半田 由佳理

もうヘンなヤツとは言わせない!

第27回
珍客!? オオアカヒトデと
アカイセエビ

飼育研究部 森滝 丈也



鳥羽市国崎で採集されたアカイセエビ



鳥羽市菅島沖で採集されたオオアカヒトデ

今年の夏の猛暑はまだ記憶に残っていますが、その影響か海水温もかなり高くなりました。あまりに異常気象が続くので、もはや「異常」が新しい通常状態となっているかのようです。そんな異常気象の影響を受けてか、鳥羽の近海では2種の珍しい生物が採集されました。

1つ目の生物は、昨年の12月に鳥羽の国崎で採集されたアカイセエビ *Panulirus bruneiflagellum* です。本種はカノコイセエビに似ていますが、第一触角に白い帯模様がないことや、歩脚の各節が橙色であることで区別できます。本来は小笠原諸島や伊豆諸島の周辺海域に分布していますが、和歌山県串本周辺などでもまれに見られることがあります。当初、鳥羽の国崎漁協の職員さんから「きれいなイセエビが獲れた」と聞いて受け取りに行ったのですが、イセエビでなく本種でした。調べた限りでは、市内海域でこの種が採集された記録は見当たらず、どうやら鳥羽市初記録になりそうです（ちなみに三重県内の採集記録も見当たりませんでした）。

次に紹介するのは、今年の4月に鳥羽市の菅島沖で採集されたオオアカヒトデ *Leptaster leachi* です。こちらは主に房総半島以南で見つかりますが、本州沿岸で見つかる個体は、南方から流れ着いた幼生が成長したものと考えられていて、実際には本州沿岸では繁殖していないようです。三重県内でもたまに採集されるので、それほど珍しいヒトデではないでしょう。実際、昨年の1月にも鳥羽の南西に位置する南伊勢町で見つかっています。ただし、こちらも鳥羽市周辺海域の採集記録は調べた限り見当たらず、やはり、このオオアカヒトデも市内初記録の可能性が高い状況です。

アカイセエビとオオアカヒトデが鳥羽の海域で採集されたことは、温暖化や黒潮の流れの変化による影響が考えられます。生物の分布の変化は、我々の環境が受けている影響を示す指標となるため、水族館としてはしっかりと記録を残す必要があります。このようなデータの蓄積によって海洋環境についての理解が深まると考えています。海洋環境の保全に向けて、このよ



展示水槽のオオアカヒトデ



昼間は岩の隙間で休んでいる

うな情報が一層重要になるでしょう。私たちが直面する環境問題に対し、各々に何ができるかを考えるきっかけになれば嬉しいです。

今回紹介したアカイセエビとオオアカヒトデは、現在も伊勢志摩の海ゾーンで展示しています（イセエビ水槽の右隣の水槽）。岩陰に隠れていることが多いですが、探してみてください。

読者のページ

LETTERS FROM READERS

☆読者の皆様からのお便りを、お待ちしております。
鳥羽水族館の思い出、質問、何でも結構です。採用させていただいた方には記念品をお送りいたします。

スナメリの「勇氣」さんお亡くなりになったんですね。残念です。大往生と
のことですが、いっしょに暮らした生きものはお別れはつらいものです。私は
ボランティアで昆虫の飼育展示をしていますが、昆虫は毎年必ずお別れがあるの
で毎年ベットのロスに悩まされます。いっしょに暮らすカメキチ(ク
サガメ)は長生きしてほしいです(座敷で放し飼いで暮らしています)。鳥羽へは
まだ行けてないですが、一度行きたいですねえ…。

★井家 利之さん(石川県)

ハズバンダリートレーニングというのがある事
を初めて知りました。動物に負担をかけないよう
に様々な事を考えてくれている事がよくわかりま
した。今後も動物のために頑張ってください。か
げながら応援しています。

★中北 美恵子さん(三重県)

図書館に置いてあったTSA84号を手にした時から、頭の中
は鳥羽水族館のことでいっぱいになり、5月に初めて伺いま
した。本当に素敵な水族館で未だ余韻に浸っています。暑さ
に疲れていた日々に85号が届きました！表紙がかわいい♡ど
のページも生きものや海への愛があふれていて鳥羽水族館そ
のものだなあと楽しく読ませていただきました。特にスナメ
リ「勇氣」の思い出の文や写真が素敵でした。

★福島 祐子さん(静岡県)



★片平 愛莉さん(愛知県)

わたしは水族館の飼育員になるのがゆめで
す。「獣医のきもち」を読んで飼育員の日常作業
の大切さを知りました。これからも飼育員しか
知らないうらがわを知りたいです。次を楽しみ
にしています！

★中村 結花さん(三重県)

生きものたちの健康のために、毎日少しづ
つ根気よく訓練を続けていらっしゃることに
とても心を打たれました。

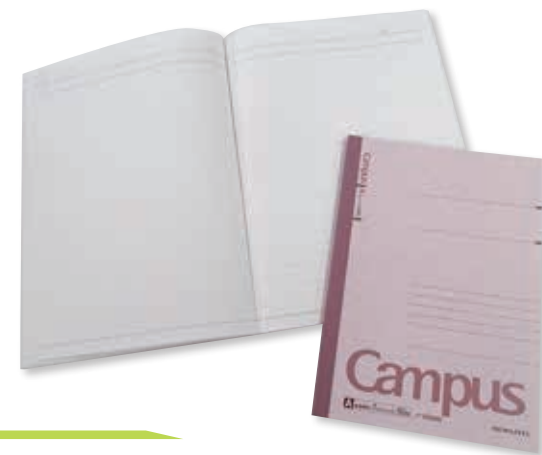
★針谷 範子さん(群馬県)

お便り・イラスト募集

引き続きおたより・イラスト・写真を募集します。締め切り：2025年2月28日
【あて先】〒517-8517 鳥羽水族館 T.S.A. 編集室(住所不要) メールアドレス：tsa@aquarium.co.jp

鳥羽水族館 モノ語り

NO.38 ノート



が書き込んだのか一目でわかることが多い。大き
な文字、小さな文字、綺麗な文字、そうではない
文字…いろいろな文字が並ぶ。びつちり文字を書
き込む人もいれば、一行飛ばしで余白が多い書き
方をするスタッフもいる。一緒に仕事をしている
と、誰が書いた文字なのかある程度想像がついて
くるのだ。それに文字の形や動き(踊り方?)でも、
その時の気持ちを推測できたり、情景が見えてく
るから不思議なものである。

生きものの観察をしながらノートに記録してい
ると、手の動きが追い付かず「あゝゝ」と叫ん
でしまうこともよくあった。その暴れている文字
が書かれたノートを見かえすのはかなり勇気がい
るし恥ずかしい。それに、深夜の観察時に眠気と
戦いつつ書いた文字は「ああ頑張っていたんだあ
…俺」と開いたノートを手にしてしみじみ思う。

ファイルの背表紙にタイトルを書くのは一般的
であろうが、ノートのあの薄い背表紙に、タイ
トルを書き込むのはとても難しい。そこで活躍す
るのがボールペンだ。それも、0.38ミリとか0.5ミリ
といった極細がいい(逆に太めのボールペンが記入
しやすいというスタッフもいる)。

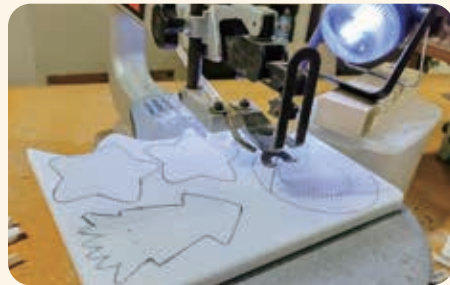
倉庫だけでなく、資料が乱雑に積み重なってい
る私の机から、探し物であるノートを見つけ出す
のは一苦労だ。そういつた点では、やはりデジタ
ルデータに軍配があがるのも仕方がないのかもしれ
ない。過去の記録を調べているときに、ノート
を開くとデジタルでは感じない「懐かしさ」がある。
あのちよつとした振り返りの時が、私は格別によ
きなのである。

並べてみた



キラは一度に全部返そうとします

キラ



ざいりょう きていよう
材料は家庭用の
まな板で、
飼育係の
手作りです

このドヤ顔



かつ
担ぐのは、
おてのもの



メイは1個ずつ返してくれます

メイ



ラッコのおもちゃ 大公開

飼育研究部 世古 篤史



ラッコは道具を使う唯一の海棲哺乳類です。
海に浮いているブイやロープ、漁具や海藻など、
何にでも興味を持ち、遊び道具にすることがあります。
今回は、「メイ」と「キラ」が鳥羽水族館で
普段使っているおもちゃを紹介したいと思います。

名譽館長の
お別れの会を開催

6月1日、中村幸昭名誉館長のお別れの会がエントランスホールで執り行われ、生前にご親交があった方々だけでなく、水族館業界やお

たいと考えています。なお、終了後は参加者に水族館の夜間見学をして頂きました。(森滝)

パラオウムガイが入館

10月20日にパラオウムガイが10個体入館しました。



鳥羽水族館は友好協力協定を締結しているパラオ国際サンゴ礁センター(PICRC)の協力のもと、パラオオウムガイの採

＝編集後記＝

とうとう還暦を迎えてしまいました。のんびりしたいのですが、仕事は忙しくなるばかりでたいへんです。(若林)

キツネ、タヌキ、ニホンザル、テン、ハクビシン、アライグマ。通勤途中で見かけた動物たち。クマには、まだ遭遇していません。(高村)

時間を見つけては墳活に勤しむ休日。発掘現場を見学したり、小高い丘に登ったりしてよい運動になります。先日、とある博物館で見つけた勾玉がスナメリに激似でテンションが上がりました。(井上)

あまり冬らしくない気温のまま11月が過ぎ去りましたが、いよいよ寒くなってきました。暖かいところに生息する生きものたちと一緒に、頑張っ

て乗り切ります！(青倉)
今号から加入いたしました。生きものたちの魅力を皆様にお伝えし、更に深い「生きもの沼」に引きずり込みたいと考えております。抜け出せませんよ！よろしくお願

次号 No.87 は6月下旬発刊予定

TOBA SUPER AQUARIUM
2024 冬 No.86

発行人／若井 嘉人

発行所／鳥羽水族館

〒517-8517 鳥羽市鳥羽3-3-6
TEL 0599-25-2555

編集長／若林 郁夫

編集委員／高村 直人
井上 まゆこ
村上 真美
青倉 七雲
斉藤 綾香

印刷／(株)アイブレーション

◎本誌の掲載記事、写真等の無断複写複製転載を禁じます。

みんなの地球を大切に！
この本は再生紙を使用しています。

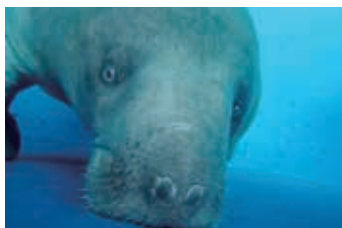


© TOBA AQUARIUM

取引先より多くの方々にご列席頂きました。式の中では、「水族館に人生を投じられた名誉館長にふさわしい演出を」という想いから、コリアルリフ大水槽を背景に、故人の功績や足跡を振り返る映像が放映され、ご列席の皆様が故人のお人柄を思い出して頂ける温かい式となりました。謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。(中村)

アフリカマナティー
「かなた」死亡

アフリカマナティーのオス「かなた」が7月27日に死亡しました。「かなた」は1996年にギニアビサウ共和国からメスの「はるか」と共に入館し、本種では国内唯一の展示で注目を集めました。2014年に「はるか」が亡くなった後はメスの「みらい」と2頭で暮らしていましたが、残念ながら繁殖には至りませんでした。「かなた」は底で仰向けになって休



集・輸送を行っています。オウムガイの仲間は個体数が減少しており、保護のため国際取引に制限が設けられ、入手が困難になっています。現在、日本国内でパラオウムガイを展示しているのは当館のみとなっています。ぜひ、ご覧ください。(若出)

オタリアの赤ちゃんが
誕生、名前は「むぎ」に

8月14日にオタリアの「がっちゃん」が赤ちゃんを出産しました。無事に生まれた仔は、「がっちゃん」にしっかりと育てられ、すくすくと大きくなりました。生まれた時から変わらず母親の「がっちゃん」にべったりですが、泳ぎ方や一頭で遊んで



息する姿が特徴的で、マイペースな優しい性格でした。天国で「はるか」とゆつくり過ごしてもらいたいです。(半田)

地震津波避難訓練を開催



今年の地震・津波避難訓練は一般のお客様も広く募集し、昨年より規模を拡大して9月28日に実施しました。訓練の参加者は水族館の職員と併せて総勢665名でした。いくつか改善すべき点があったものの、全体的に避難も誘導も概ねスムーズに行えたと感じました。さらに迅速な避難誘導を可能にするため、今後も訓練を重ねスキル向上に努めてい

いる姿を見ると成長を感じます。またお客様からの愛称募集を行い、1000通を超える応募の中から「むぎ」に決定しました。素敵な名前を応募していただきありがとうございます。(八幡)

TOBA SUPER AQUARIUM
出来事

2024年5月～10月

5月

7日 ●新米飼育係が田んぼ水槽で田植え
9日 ●ラッコ「メイ」誕生日イベントを開催

15日 ●オタリア「みぞれ」死亡

17日 ●カリフォルニアアシカ「みかん」死亡

20日 ●ラッコの「メイ」が鳥羽市よりふるさと応援大使に任

31日 ●セイウチ「ツララ」誕生日イベントを開催

31日～8月31日 ●企画水槽「カエルとイモリの天気予報水槽」が今年も登場

6月

1日 ●中村幸昭名誉館長のお別れの会を館内で開催

12日 ●アルビノのアマガエルのオタマジャクシ1個体入館

21日 ●フンボルトペンギン「姫」死亡
26日～27日 ●当館で第90回近畿ブロック水族館飼育係研修会を開催

28日 ●ヒメカエルガメ1個体孵化

7月

9日 ●スナドリネコ「プサ」を千葉市動物公園へ搬出

13日 ●セイウチふれあいタイムで海難事故防止キャンペーンをPR
13日～9月1日 ●夏の企画展「夏だ！とばすいじゅうけんきゅう展」を開催

23日 ●ラッコたちが一日警察署長に就任
25日 ●ヒメカエルガメ1個体孵化
27日～8月9日 ●「飼育係による生きものセミナー」を開催

27日 ●アフリカマナティー「かなた」死亡

8月

2日 ●白いトノサマガエルが入館

14日 ●オタリアに赤ちゃん誕生

16日 ●スベングラーヤマガメ1個体孵化

17日 ●フンボルトペンギン「ハビ」死亡

23日 ●スベングラーヤマガメ2個体孵化

9月

6日 ●スベングラーヤマガメ1個体孵化

28日 ●地震津波避難訓練を開催

10月

7日 ●2025年版 鳥羽水族館オリジナルカレンダーが完成

8日 ●鳥羽の日イベント「ラッコ飼育員によるお食事タイムLIVE解説」を開催

20日 ●パラオオウムガイ10個体入館

30日 ●フンボルトペンギン「キョロ」死亡

★オタリアの赤ちゃんの愛称が「むぎ」に決定

鳥羽水族館 スケジュール (2024年12月1日現在)

1月

2月

3月

4月

5月



イヌーゾ

お正月イベント

蛇蛇蛇神社
期間：12月29日(日)～
2025年1月6日(月)

春の企画展

～開館70周年特別展～
鳥羽水族館タイムトラベル
期間：2025年3月20日(木・祝)～
6月1日(日)



■詳しい日時についてはホームページでご確認ください。なお、動物の健康状態などにより変更や中止の場合があります。

クイズ&プレゼント Quiz & Present

Q.開館70周年を迎えた鳥羽水族館の
ルーツはなんでしょう？

- 1：お寿司屋さん
- 2：魚屋さん
- 3：漁師さん

ヒントは
特集ページに
あるよ！

正解者の中から抽選で3名様に

「70周年おたのしみ袋」をプレゼントいたします。クイズの答え、住所、氏名、電話番号、感想をご記入の上、ご応募ください。

締切は2025年2月28日(必着)で、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

あて先：〒517-8517 (住所不要)

鳥羽水族館 T.S.A. 編集室



定期購読
方法の
ご案内

郵便払込み(青色用紙)でお申し込みください。

加入者名：鳥羽水族館 T.S.A. 編集室

口座記号番号：00890-7-188305

料金

1年分 420円、2年分 840円です。

通信欄に氏名、住所、電話番号、何号からの購読希望か、購読期間は1年か2年かをお書きください。

【動物取扱業に関する表記】

鳥羽水族館：三重県鳥羽市鳥羽 3-3-6 種別：展示 志摩第18-1号 2006年6月1日 登録更新：2021年6月1日 有効期間：2026年5月31日まで 動物取扱責任者氏名：長谷川一宏